

平成27年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成27年10月28日(水) 午前9時00分～11時00分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 高橋 義雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)《会 長》
勝亦 紘一 ((公財)豊田市体育協会 副会長)《副会長》
熊谷 謙蔵 (豊田市区長会 理事)
兵藤 おさみ (豊田市スポーツ推進委員協議会 副会長)
藪押 光市 (豊田商工会議所 事務局長)
本多 重之 ((一社)豊田青年会議所 副理事長)
徳田 康 ((公財)愛知県サッカー協会 専務理事)
桑田 厚司 (愛知県ラグビーフットボール協会 理事長)
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役営業部部長)
小椋 伸二 ((株)名古屋グランパスエイト ホームタウン推進部長)
里園 友紀 (エフエムとよた(株) ラジオラヴィートパーソナリティ)
北垣 啓子 (公募委員)

【欠席者】 (委 員) 菊池 秀夫 (中京大学スポーツ科学部 競技スポーツ科教授)
中井 久美 (豊田まちづくり(株) 地域事業部リーダー)
廣瀬 佳司 (トヨタ自動車(株)人事部 トヨタスポーツ強化グループ主幹)

【事務局】 福島 兼光 (教育長) 宮川 龍也 (教育行政部長)
大谷 哲也 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 上山 輝 (スポーツ課主事)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 委嘱状交付
2 教育委員会あいさつ
3 委員紹介
4 会長、副会長あいさつ
5 議題 スポーツコミッションの検討について
(1) スポーツコミッションについて(資料1)
(2) 地域スポーツコミッション等の選考事例(資料2)
(3) 豊田市のスポーツツーリズム資源と事業戦略課題(資料3)

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）スポーツコミッションについて

事務局：資料に基づき説明（資料１）

会 長：説明事項についてご意見ご質問等を。

スポーツコミッションという考えは近年になって使われるようになった。国のスポーツ基本計画の中では、スポーツコミッションとなるような組織を各地域で作っていくこととなっている。現在は全国的に組織を作る動きが出ているが、国から組織についての具体的指示は出していない。そのため、各自治体が地域の実状にあった組織を作っていくことが大切。

委 員：岐阜で陸上のマスターズの試合が開催される。試合も楽しみだが、試合が終わった後の観光も非常に楽しみにしている。スポーツと観光を組み合わせる時代になってきている。

委 員：2019年のラグビーワールドカップでは豊田市を会場のひとつとして開催が決定しており、2020年の東京五輪のサッカー予選も豊田市を会場とする話が出ており、リオ五輪の終了後に正式に決定されると聞いている。スポーツツーリズムを考えて取組をするということはタイミングが良い。そのため、国際大会が開催されることを機会に、地域づくりをしていくことが大切であると思う。豊田市には豊田スタジアムを始め、いろいろな施設があり、企業や大学なども非常にスポーツに熱心取り組んでいる。市としても大き過ぎず、小さ過ぎず、非常に適度な規模である。以上のことと観光資源も含めて、スポーツツーリズムという取組を積極的に取り込んで行うべきだと思う。

■議題（２）地域スポーツコミッション等の選考事例

事務局：資料に基づき説明（資料３）

会 長：説明事項について何か意見質問等あるか。

委 員：スポーツとは何かを考えた時に、「エンジョイ（楽しむ）からトップ（競技性）」まで幅広く考えなければならない。文化・スポーツという考えが事務局の説明の中でもあったが、スポーツを文化として考えたいと思っている。例えば、愛知県のサッカー人口は1%であるが、その中でスポーツツーリズムを含めてサッカーで何ができるか焦点を当てなければならない。「エンジョイからトップ」まで幅広いクラブがある中で、クラブ活動のひとつのあり方として、例えば、「サッカーをした後に、温泉に入り食事をして楽しむ」ということも一つであり、それがスポーツ文化として考えている。また、クラブにはクラブ会員がおり、その中に代表がいるが、代表者が運営しているという感覚ではなく、会員全員でクラブを支えて運営していくという感覚が大事であると考えている。豊田市のスポーツコミッション、スポーツツーリズムを考える上でもいくつか課題があると思うが、市民が参加し、自分たちのものであるという感覚が必要であると思う。

会 長：非常に大事なご意見をいただいた。スポーツ振興審議会からスポーツ推進審議会に変わったことは日本の大きな転換である。振興という考えは東京五輪（1964年）前からで、スポーツをしていない人にスポーツをさせるようにするということ。振興の取組をしてきたが、実際に年に1回スポーツをする人は6割で、4割はスポーツをしていない状況である。推進という考えは、6割のスポーツをしている人をより良くさせると同時に、スポーツをし

ていない残り4割の人にスポーツをすることを促進させる。スポーツをしている人へのサービスから、スポーツをしない4割の人に対していかに影響を与えるかであり、国のスポーツ施策の考え方は振興から推進へと変わった。

スポーツを通じて、全く関係なかった人をスポーツと関連付けさせたり関心を持たせたりするシステム作りがスポーツコミッションの発想でもある。

沖縄県では体協職員がコンベンションへ派遣され旅行営業の知識を学ぶ。派遣が終わったら、体協職員が合宿・大会の主催者や旅行会社等からの問合せ窓口をしている。

大事なことは、ただ単にスポーツイベントを実施することではない。合宿・大会を誘致することで、今までスポーツをする人たちにとっては、場所が少なくなるかもしれないが、スポーツに関心がなかった人に対し、スポーツに関心を持たせることがスポーツコミッションとして大事である。

委員：1ページと2ページに関する施設はすべて行ったが、利用者の立場から、行政のサポートが強いところは継続性が高い。プロレベルの施設を整えることは難しいことだと思うが、一民間企業のみでは難しいと思う。

例えば網走市は、夏はラグビー、冬は流氷で方向性やターゲットが明確化されており、継続性もあった。スポーツコミッションの中でマーケティングも大事であるが、ターゲットをしっかり絞り、行政も協力しながら取り組むことが大切。

会長：網走市は、市外への宿泊を許容しており、他市との繋がりも非常に良い。

■議題（3）豊田市のスポーツツーリズム資源と事業戦略課題

会長：説明事項について、全体のことについて何か意見質問等あるか。

委員：豊田市はとても広い。今年、稲武でこどもスポーツフェスティバルを実施する。自然が多く、子どもたちからも好評であったが、問題は移動手段。子どもにとっては、バスや電車に乗って会場まで行くことも体験のひとつとして考えている。クラブの事業で、キャンプを検討している。そこでも公共交通機関など乗り物で行くこともひとつの体験としてさせたい。

会長：交通手段については、旅行業者とコーディネートができる組織が大事になってくる。

委員：運動公園の利用率は良さそうに見えるが、豊田スタジアムやスカイホールと比べると低い。運動公園までの交通アクセスも非常に悪い。交通アクセスについては、名鉄等の撤退もあり難しい問題である。

また、名鉄の跡地をウォーキング等で利用することによって、運動公園が活発に利用できるようなになれば良いと地域で考えている。スポーツの考え方が、振興から推進に変わったということで、地域としてどのようなことができるか考えていきたい。

会長：運動公園でスポーツをするツアーを是非考えていただけたらと思う。

委員：2019年に向けて、愛知県・豊田市と協力をして、盛り上げたムードをどう維持していくか課題。有名大学の試合や国際Aマッチの試合をどのように誘致するか。また宿泊施設や交通手段については、スポーツツーリズムにとって重要な課題であると思っている。

会長：2019年に向けて検討する組織、人が必要。今までの自治体は、3年で担当が代わってしまうということが起こっており、担当が代わることで方針が変わってしまうことが現状。そういったことにならないような仕組みをシステム化することもスポーツコミッションでは大切だと思う。

委員：豊田市は大企業もあることから、中心部は県外からくる方が多く、山間部はもともとそこに住んでいる地域住民がいる。各地域が、盛り上げようと思っている地域が多いということが豊田市の特徴であると思う。現在まとまっていない各分野の活動がまとめれば、強固なものができると思う。

地元産の農産物を使って盛り上げていければと思う。例えば、観光客にも農産物を使ったものを食べてもらう。また、プロスポーツ選手と触れ合う機会を多くすることで、スポーツに対する興味や関心が広がると思う。

会長：神戸で、スイーツマラソンを実施しており、給水地点でケーキを食べられるようになっている。今まで教育委員会としてのスポーツの考えからすると、問題として捉えられてしまうが、今後の発想として、みんながワイワイ集まって楽しく盛り上げていく機能を活かしていくことも大切。豊田市でも農産物を使ったマラソンを実施するのも良いとも思った。

委員：審議会の中でスポーツコミッションをどうするのか（方向性）が一番のメインだと思うが、そのほかにあるのか。

事務局：意見いただいて、どう取り組むのか方向性をまとめる。

委員：コミッションを作るのは大前提か。

事務局：スポーツを通じて地域を活性化させることが大前提。組織を作るべきか作らないべきかを検討いただきながら方向性をまとめる。

会長：民間がやっているところもあれば旅行組合がやっている場合もある。豊田市では、どのような体制が豊田市に一番合っているのかを検討する。

委員：ラグビーを行い、地域の子どもたちにラグビーを知ってもらいたいと思って活動をしている。

色々な団体があり、それぞれが自分の団体の利益を考えるなど、垣根が多い。豊田市全体としての利益として考えていくなど、垣根を取り払えると良いと思う。また、2019年だけではなく、その先もどうしていくのか考えていくことも大事だと思っている。

会長：豊田市スポーツ計画の検証は今後、コミッションの検討が終わった後に行うと思う。

委員：スポーツ推進委員として、誰でもできるようなスポーツを指導している。例えば、マレットゴルフは誰でも簡単にできるスポーツでありマレットゴルフ場もたくさんある。そのため、マレットゴルフ大会を開催することで、豊田市の経済に良い影響が与えられると良いと思う。また、練習しなくてもできるスポーツの大会を開催するのもよいと思う。

会長：イベント実施の要望や希望はあるかと思うが、なかなか手が回らないのが現状。まずはスポーツする人を増やしていくことがベースとなっていくと思う。是非スポーツする人を増やしてほしい。

会長：事務局から説明のあった現状分析から、事業戦略課題についてご意見をお願いします。

委員：スポーツと観光を組み合わせるためには、大きなイベントを数回誘致するだけでは費用対効果を考えてときに無理がある。マイナースポーツの大会誘致、例えば全国ドッジボール大会や全国サッカー大会を誘致し、それを継続していくことが良いと思う。

また、2019年以降のことも踏まえて考えていけないといけない。例えば、スタジアムでのサッカーの試合を観戦に行く市民は少ないし、商店街にも経済効果があるとは考えにくい。コンサートの方が効果はあると思う。いかに経済効果に繋げるかが、今後の検討課題になると思う。

会 長：誰が国際大会誘致を成功させるか、情報を繋げるかは非常に重要なこと。スポーツアコードでIFの理事と繋がりを持って、国際大会を誘致している市もある。そのような場に出席して、豊田市のアピールをし、交渉していく仕組みが非常に重要になってくる。国内のイベントと同時に海外の隠れたイベントを誘致できるような組織が必要。

委 員：体協もたくさん宿題をもらった。持ち帰って次回に備えたい。

体協として、スポーツツーリズムに関して提案していく必要性を感じた。また、山間部は、アウトドアスポーツの宝庫。豊田市は非常に可能性をもった都市であると思う。

委 員：ハード面と交通アクセスは切り離せない。運動公園を合宿候補地として誘致するのであれば、スポーツツーリズム考える上で、ハード面の整備もひとつの材料として検討していく必要がある。2019年と2020年のイベントを一過性に終わらせないような取組が必要。

会 長：事務局に今後の展開を説明してもらおう。本日欠席の中京大学とトヨタ自動車の意見もきいておくように。

事務局：今後の展開を説明。

以上